

JA 全農ちば 営農情報集

2024 年
6 月



今月の情報

1. 当面の対策について
2. 病害虫防除（園芸・果樹）について
3. 果樹（ナシ）病害虫防除情報
4. 果樹カメムシ類の発生および被害に注意
5. 食中毒対策について

今月の気象（気象庁 5/25 発表 1 か月予報より）

6 月も、5 月から継続して気温が高くなる予報です。梅雨に入ると雨による排水管理以外にも湿気による病害の発生などにも注意が必要です。天気の変動に注意しましょう。

【気温】	30	30	40
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	30	30
	低い	平年並み	高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稲 当面の対策について

JA全農ちば
営農支援部

1. はじめに

4月20日頃移植の生育は、全体的に「平年並み～早く」推移し茎数も「平年並み～多い」状況です。5月1日頃移植のコシヒカリでは葉齢・草丈・茎数とも平年並みで、葉色はやや淡くなっています

長期予報では6月の気温はやや高くなると見込まれています。適期の中干しを心掛け、適正な生育量を確保しましょう。

2. 近年の高温障害対策に！

～中間追肥：けい酸加里の使用について～

- (1) 効果：けい酸と加里が同時に吸収されることにより、根の活力が高まり登熟向上につながります。また、受光体勢が良くなるので、光合成を促進させる効果もあります。
- (2) 施用時期：中干し直前（田植後35～45日）
- (3) 施用量：20～40kg／10a

けい酸加里
20kg

保証成分(%)
 水溶性加里 20
 水溶性けい酸 34
 水溶性苦土 4
 水溶性ほう素 0.1

含有成分(%)
 石灰 7~12
 鉄 2~5

高品質な米作りのお手伝い
 近年、極端な猛暑や日照不足などの異常気象が頻発しています。けい酸加里によって根や葉を丈夫に育て異常気象に負けない丈夫なイネ作りをしましょう。

異常気象に強い
 乳白粒軽減
 倒れにくい
 実入りがいい
 丈夫！
 根ばりバツグン
 水分
 カリ
 養分
 ケイ酸

供給 JAグループ 製造 開発肥料株式会社
<http://www.jpsik.com>

3. 分けつ数をチェックして中干しを実施しましょう

中干しが出来ず、湛水状態を続けると酸素不足によって、土壌の還元化が進んで根が老化し、幼穂形成期以降の登熟期間の養分吸収が悪くなります。

根が老化するとケイ酸、リン酸、加里などの吸収が抑制されるので、稲の体が軟弱気味になります。

「中干し」の効果は…

- ・無効分けつの抑制と下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲にします。
- ・土壌中に酸素を供給し、根を活性化させます。
- ・機械作業に適した土壌硬度を確保します。

茎数が確保された圃場では速やかに「中干し」を実施しましょう。特にコシヒカリは倒伏防止のために遅れずに実施しましょう。

表1 品種別の中干し開始の目安

品 種	植付時期	中干し開始目標茎数		
		砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480 本/㎡ (27 本/株)		440 本/㎡ (24 本/株)
ふさこがね	4月20日	360 本/㎡ (20 本/株)		
コシヒカリ	4月20日	320 本/㎡ (18 本/株)	310 本/㎡ (17 本/株)	300 本/㎡ (16 本/株)
	5月 1日			
粒すけ	4月20日	472 本/㎡ (26 本/株)	440 本/㎡ (24 本/株)	

※（ ）内は60株／坪植えの時の1株当たりの茎数の目安

※疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがあります。

4. 「ふさおとめ」「ふさこがね」は幼穂のチェック！

～穂肥の遅れに注意～

4月20日植えの「ふさおとめ」は6月11日頃、「ふさこがね」は6月12日頃、「コシヒカリ」は6月19日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。穂肥の適期は幼穂形成期（出穂前25日）～出穂前18日（幼穂長1mm～10mm）です。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク割合が増加し、食味の低下を招くので注意が必要です。また、「ふさこがね」の穂肥適期は出穂前18日（幼穂長10mm）です。どちらも適期施用を心がけましょう。穂肥の際は、「化成肥料 17-0-17」等の速効性肥料を施用しましょう。

表2 品種別の幼穂形成期での生育目標と穂肥の施用適期(栽植密度 18.5 株/㎡)

品 種	草 丈 (cm)	茎 数			葉色 (SPAD 値)	出穂前日数 (幼穂長)
		砂質	壤質	粘質		
ふさおとめ	55 以下	5 7 0 ~ 6 2 0 (3 1 ~ 3 4 本)		5 2 0 ~ 5 7 0 (2 9 ~ 3 1 本)	4. 0 (35~38)	出穂前 25 日 ~ 出穂前 18 日 (1 mm ~ 10 mm)
ふさこがね	60 ~ 65 以下	4 5 0 ~ 5 0 0 (2 5 ~ 2 7 本/株)			5. 0 (38~42)	出穂前 18 日 (10 mm)

5. 倒伏軽減剤について

昨年は長梅雨・曇天等から徒長し易い条件となりました。コシヒカリは、幼穂形成期頃の茎数が過剰となったり、草丈が 75 cm を超えると倒伏が心配されます。稲の生育状態に合わせて、倒伏軽減剤の散布を検討してください。また、大豆等からの復元田や倒伏の常発田においては倒伏軽減剤の散布をするようにしましょう。

表3. 倒伏軽減剤の使用時期と目安

薬剤名及び 使用時期	効 果 発現場所	7 月 15 日頃 出穂の場合	7 月 25 日頃 出穂の場合	10a 当たり 使用量
ロミカ粒剤 (出穂 25~10 日前)	上 位 (2~3 節)	6 月 20 日 ~ 7 月 5 日	6 月 30 日 ~ 7 月 15 日	2~3 kg
スマレクト粒剤 (出穂 20~7 日前)	上 位 (2~3 節)	6 月 25 日 ~ 7 月 8 日	7 月 5 日 ~ 7 月 18 日	2~3 kg
ビビフル フロアブル (出穂 10~2 日前)	上 位 (1~2 節)	7 月 5 日~13 日	7 月 15 日 ~ 7 月 23 日	1000 倍液の 100 ㍓散布 (散布ムラに注意)

6. イネクロカメムシ対策について

イネクロカメムシは斑点米カメムシ類と異なり、主に株元に寄生しイネの茎葉を吸汁します。県南から近年、県中央部でも見られ、発生が拡大しています。

加害されると葉先は黄変、捻転し、草丈は伸びず分げつが抑制されます。成虫は光沢のない黒色で体長 8~10 ミリ、防除は箱処理剤または本田防除(6 月下旬)で対応します。



被害葉と成虫

表4. イネクロカメムシ対策の主な本田防除薬剤

対象害虫	薬剤名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	備考
カメムシ類	キラップ粒剤	3 kg	収穫 14 日前	2 回以内	湛水散布
	エルサン粉剤 2	4 kg	収穫 7 日前	2 回以内	

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

現在、高温傾向のため害虫の発生が増加しております。今後、梅雨入りして降雨が多くなると、害虫だけでなく病害の発生増加も懸念されます。防除が遅れると農作物の収量低下に繋がりますので、予防的な防除を心がけましょう。

2. ネギ（ネギアザミウマ）

- (1) 有効な薬剤系統が少なくなっています。下表を参考にしながら、ローテーション散布を行いましょう。
- (2) 朝、夕は株元付近にいて日中葉上に移動します。早朝や夕方の薬剤散布時は、株元まで薬剤がかかるよう丁寧に行いましょう。
- (3) ネオニコチノイド系薬剤（スタークル・ベストガード等）は定植時の粒剤使用を中心とし、ハモグリバエとの同時防除として使用しましょう。



○ネギ ネギアザミウマ 防除薬剤

対象害虫	薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ネギアザミウマ (アザミウマ類 含む)	ネオニコチノイド系	ベストガード粒剤	6kg/10a	定植時	1回
		スタークル顆粒水溶剤	50倍/0.5ℓ/ 1トレイ	定植前日 ～定植時	1回
	ジアミド系	ベリマークSC	400倍/0.5ℓ/ 1トレイ	育苗期後半 ～定植当日	1回
	マクロライド系	アグリメック	500～1000倍	3日前まで	3回
		アニキ乳剤	1000倍	3日前まで	3回
	スピロシン系	スピノエース顆粒水和剤	2500～5000倍	3日前まで	3回
		ディアナSC	2500～5000倍	前日まで	2回

3. トマト（コナジラミ類・アザミウマ類・葉かび病）

(1) コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミの2種が発生します。葉のすす汚れに加え、近年ではタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病の発生が増加しています。薬剤防除のみならず、防虫ネットの展張や、圃場周辺の除草などの総合的な防除を実施しましょう。

(2) アザミウマ類

トマトでは葉の食害や果実の白ぶくれ症状に加え、各種ウイルスを媒介する恐れがあります。葉裏や花（果実）へ寄生することが多いため、薬剤散布は丁寧に行い、薬剤抵抗性の発達が非常に速い害虫であるため、同じ系統の薬剤の連用・多用は避けるローテーション防除を心がけましょう。

農作業安全 管理機による巻き込まれ事故注意！ 転回・バック時は慎重に！

食の安全・安心 農薬散布器具は毎回必ず洗浄！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

○トマト コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤 **マルハナ影響日数に注意（下記参照）**

対象害虫	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コ	ア	コード			
○	○	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000 倍	3回以内
○		4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000 倍	2回以内
○	○	5	ディアナ SC	2500 倍	2回以内
○		6	アフーム乳剤	2000 倍	5回以内
○		9B	コルト顆粒水和剤	4000 倍	3回以内
○	○	15	マッチ乳剤	2000 倍	4回以内
○	○	28	ベネビア OD	2000 倍	3回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	2000 倍	2回以内

コ：コナジラミ類 ア：アザミウマ類

＜マルハナバチへの影響日数＞

ベストガード水溶剤：10日以上	トランスフォームフロアブル：2～5日
ディアナ SC：1～3日	アフーム乳剤：2日
コルト顆粒水和剤：3～7日	マッチ乳剤：影響なし
ベネビア OD：1日	グレーシア乳剤：1日

（3）葉かび病（すすかび病防除も兼ねる）

感染から発病まで14日以上かかる病害のため、現在発病している葉の上の葉まで感染している恐れがあります。すでに発生が見られる場合は下記治療剤を加えた薬剤散布を行いましょう（ハウスでは日中の高温を避けて散布しましょう）。

○トマト 葉かび病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
	コード					
	M5	ダコニール 1000	1000 倍		4回以内	予防
	M7	ベルコートフロアブル	2000～4000 倍		3回以内	予防
葉かび病	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000 倍	収穫前日まで	3回以内	予防・治療
		アミスター20 フロアブル	2000 倍		4回以内	予防・治療
	1+10	ゲッター水和剤	1000～1500 倍		5回以内	予防・治療
	3	トリフミン水和剤	3000～5000 倍		5回以内	予防・治療

4. サトイモ（疫病）

6月以降の長雨後（25℃以上、降雨続き）に増加する傾向がありますので、下記薬剤による防除を実施しましょう。また、サトイモは農薬が付着しにくいいため、展着剤を加用しましょう（野菜類・いも類登録があるもの：ハイテンパワー等）

○サトイモ 疫病 防除薬剤

薬剤系統	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	特徴
QoI 剤	11	アミスター20 フロアブル	2000 倍	収穫 14 日前	3 回	予防・治療
—	21+27	ダイナモ顆粒水和剤	2000 倍	収穫 21 日前	3 回	予防・治療

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意！ 転回・バック時は慎重に！ 食の安全・安心 農薬散布器具は毎回必ず洗浄！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 営農支援部

果樹（ナシ）病害虫防除情報

JA全農ちば
営農支援部

1. はじめに

令和6年度病害虫発生予報第2号（千葉県農林総合研究センター5月17日発表）によると、千葉県内のナシ黒星病の4月下旬発病果率は「並」となっておりますが、今後の気象状況によっては激発する恐れがあります。現状少ない発生の園でも油断せずに防除を実施しましょう。



2. 病害防除（黒星病）

【6月】 黒星病 防除薬剤（輪紋病防除を含む）

- | | | | | |
|--------------|---|------------------------------|-------|---------------|
| 6月上旬 | ： | ベルコートフロアブル | 1500倍 | （収穫14日前／5回） |
| 6月中旬 | ： | フロンサイドSC | 2000倍 | （収穫30日前／散布1回） |
| 6月下旬（新梢停止直後） | ： | ストロビードライフロアブル【QoI剤（ストロベリン系）】 | | |
| | | | 2000倍 | （収穫前日まで／3回以内） |
| | + | オーソサイド水和剤80 | 1000倍 | （収穫3日前／9回） |

【7月】 黒星病、防除薬剤（輪紋病防除を含む）

- | | | | | |
|------|---|-------------------|--------|-------------|
| 7月上旬 | ： | ミギワ20フロアブル【新規系統剤】 | 4,000倍 | （収穫前日まで／3回） |
| | + | ベルコートフロアブル | 1,500倍 | （収穫14日前／5回） |
| 7月中旬 | ： | カナメフロアブル【SDHI剤】 | 4,000倍 | （収穫前日／3回） |
| | + | オーソサイド水和剤80 | 1,000倍 | （収穫3日前／9回） |
| 収穫期 | ： | トップジンM水和剤（輪紋病対策） | 1,500倍 | （収穫前日／6回） |

ベルコートやオーソサイドは予防強化に加え、耐性菌発生対策のため使用します。

オーソサイド水和剤80は果実に薬剤汚れが発生する可能性があるため、対策が必要な場合は展着剤まくぴか10,000倍を加用しましょう。調合時は泡立ち防止のため最後に加えましょう。

輪紋病発生園では、カナメのところをパレード15フロアブルに変更しましょう。

☆今年度の防除について *カメムシの発生に注意！！

6月下旬からのストロビー、ミギワ、カナメは果実の感染拡大を防ぐ目的があり、満開後75～90日の最も感受性の高い果実肥大期に合わせた重要な防除です。通常、新梢停止直後（いわゆる止め葉が出た後）に果実肥大が進みます。樹体の観察に努めて防除適期を逃さないようにしましょう。生育が早まっている場合は、散布時期の繰り上げではなく、日数・使用回数に注意しながら追加薬剤を選択しましょう。

また、特に今年度は果樹類のカメムシ発生が非常に多くなる事が予想されます。カメムシ対策として合成ピレスロイド系や有機リン系薬剤を散布した場合、リサーチェンスによりハダニの発生が助長される可能性が考えられますので、適期ダニ剤の散布などを心がけてください。

●耐性菌リスクの低減について

治療効果のある薬剤は、①同系統薬剤の連用・多用、②単剤（他に予防剤などがない状態）での使用、③病害が多発の状態での使用時、耐性菌が発生するリスクが非常に高くなります。

同系統剤の連用を避けて選択し、散布回数等の問題がない限りは予防剤と組み合わせて使用した方が、防除効果・耐性菌リスク対策の面で有効です。

3. ハダニ類

30℃以上の気温が高い日が続くと、10日で世代がかわる早さで増加を始めます。梅雨～梅雨明け直前ごろからのカネマイト・ダニゲッターによる防除が基本ですが、園内の発生状況を確認し、必要に応じて時期を早める必要があります。

○ハダニ類 防除薬剤

時期	薬剤名	主な効果	登録内容
<u>梅雨明け前</u>	ダニゲッターフロアブル	殺卵	2000 倍・収穫前日・1 回
7 月中頃	ダニコングフロアブル	殺幼成虫	2000 倍・収穫前日・1 回
8 月上旬～	マイトコーネフロアブル	殺幼成虫	1000 倍・収穫前日・1 回

臨機で、6 月下旬にカネマイトフロアブルや7 月中下旬にコロマイト乳剤も選択可能です。（カネマイトは昨年までハダニ類・ニセナシサビダニ防除として暦に記載）

4. カイガラムシ類 ・ほかアブラムシ類・アザミウマ類

『薬剤のかけムラに注意！』

カイガラムシ類は枝の上面や枝分岐点付近、園外周の枝に溜まる傾向があります。薬剤がかかりにくいからです。十分な散布量（目安 250L/10a）を確保し、様々な向きから散布したり、大きな被害のある樹は手散布で枝の上面にもかかるよう散布しましょう。



ナシマルカイガラムシ

○カイガラムシ類 防除薬剤

による被害果

時期	薬剤	登録内容
6 月上旬	トランスフォームフロアブル	1000 倍・収穫前日・3 回
6 月上旬～中旬 (臨機)	コルト顆粒水和剤	3000 倍・前日・3 回
6 月下旬	オリオン水和剤 40	1000 倍・収穫 3 日前・2 回

コルトは浸透移行性がないため、すでに巻いている葉内のアブラムシには効果薄になります。基本的にはアザミウマ対策を主軸として、カイガラムシ対策を強化する意味で追加選択します。

果樹カメムシ類の発生および被害に注意

J A全農ちば
営農支援部

5月10日に県農林総合研究センターより果樹カメムシの多発のおそれがあるとして、病虫害発生予察注意報が発表されています。注意報によりますと県内10地点に設置しているチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップの4月の1日当たり誘殺数は4.4頭(平年値0.6頭)で、過去10年間と比較して最も多くなっています。

カメムシが多発する見込みのため、防災網などは早めの展張をし、追加の薬剤防除をすることで対策をしましょう。

1、果樹カメムシ類の生態

気温が上昇してきた4月頃、越冬場所から動き出したカメムシ類は、6月頃にかけて植物の新梢やカンキツなどの花、サクラ、ウメ、ビワ、クワの実などを吸汁します。越冬成虫量が多い年には、多数飛来してカンキツやウメ、ビワなどの新梢や花、果実を吸汁して落果させることがあるため、注意が必要です。6月下旬～7月頃になると主要な餌であるヒノキやスギの毬果が成熟するので、毬果上に移動して産卵、増殖します。ヒノキ毬果上で増殖したカメムシ類の成虫は、台風等の風にあおられたり、毬果が餌として不適になったりすると果樹園へ飛来してナシやカキ、カンキツ等の果実を吸汁するため、果実の変形や落果が発生します。9月を過ぎ、段々と夜温が下がり始めるとカメムシ類の活動時間は鈍くなり、10月下旬頃には越冬場所へと移動します。

果樹カメムシの生態として以下の三種が被害を多く出すと言われていますが、特にチャバネアオカメムシがナシなどの果樹園で見かけることが多いです。果樹カメムシの体長は1～2cm程度であり、チャバネアオカメムシが一番小さいサイズとなります。

チャバネアオカメムシ



越冬場所：広葉樹の
落葉下

クサギカメムシ



越冬場所：樹の粗皮下や
建物の隙間

ツヤアオカメムシ



越冬場所：常緑広葉樹の
樹冠内

2、防除対策

(1) 果樹カメムシ類は、各種樹木の果実等を移動しながら吸汁しており、果樹園への飛来状況は地域や園により異なるので、園内をこまめに見回り、飛来を確認したら早急に薬剤防除を行いましょう。

(2) 夜行性のカメムシ類は日没後2時間ほどしてから見られるため、有効な薬剤を夕方散布します。散布作業が始まると園外へ飛散しようとするので、地域で一斉防除することが理想的です。

(3) ナシでは多目的防災網(9mmクロス目合い)や防虫ネット(4mm目合い)で園全体を覆う状況を作りましょう。

(4) 防災網を展張する場合や早めにピレスロイド系の薬剤を散布する場合、ハダニなどの発生が助長される可能性がありますので、圃場内の観察を実施しましょう。



カメムシ被害果

3、薬剤防除

● ナシ カメムシ対策剤一覧

系統名	IRAC コード ^a	商品名	倍率(倍)	使用前日数	使用 回数
合成 ピレスロイド系	3A	テルスターフロアブル	3000	前日	2回
		ロディー水和剤	1000	前日	2回
		アグロスリン水和剤	1000	前日	3回
		マブリック水和剤 20	2000	30日	2回
ネオニコチノイド系	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2000～4000	前日	3回
		アドマイヤー水和剤	1000～2000	3日	2回
		バリアード顆粒水和剤	2000～4000	前日	3回
		アクタラ顆粒水溶剤	2000	前日	3回
		ダントツ水溶剤	2000～4000	前日	3回
		スタークル顆粒水溶剤	2000	前日	3回

安全な農作物生産の取組みについて ～食中毒対策～

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

夏に向けて気温が高くなると微生物が増殖しやすくなります。特に病原性大腸菌（O-157）等による食中毒に注意が必要となります。消費者へ安全な農畜産物をお届けするために、石鹼を使用した手洗いを徹底しましょう。

2. 食中毒対策について

（1）石鹼を使って手洗いをしましょう！

ア．手洗い前（農作業後）の手は汚れがかなり付着しています。

イ．水洗いのみの場合でも、洗い残しが確認できます。

ウ．石鹼を使用した手洗いの場合、洗い残しがほぼありません。

ア．手洗い前（農作業後）

イ．水洗い

ウ．石鹼を使用した手洗い

い



綺麗に見えるけど、汚れは落ちていない…！



石鹼を使用して手を洗うと、洗い残しはほぼ無い！



石鹼を使用した手洗いが重要！！！！

（2）家畜ふん堆肥は完熟たい肥を使用しましょう！

堆肥が未熟なままだと病原性大腸菌等が残っている可能性が高いです。堆肥は作物や作業者に触れる場合があるため、適切に完熟化した堆肥を使用しましょう。

適切な家畜ふん堆肥管理

（1）被覆等を行い、堆肥表面温度を **55℃程度で数日間以上保つ**

（2）**切り返し**を行い、堆積物全体の温度が上がるようにする

（3）堆肥を出荷調整場へ持ち込まないように、**場所に合わせて履物を履き替える**

日頃からの小さな衛生管理が産地の食の安全・安心を守ります！！！！